



高山村立高山中学校

学校だよりNo. 3

令和5年9月1日



## 2学期がスタートしました

8月22日の火曜日より、2学期がスタートしました。始業式では、各学年の代表生徒による2学期の抱負の発表、そして校長先生のお話、校歌斉唱がありました。全校で2学期への思いを共有しました。良いスタートが切れたのではないかと思います。

保護者の皆さま、地域の皆さま、2学期もご支援、ご鞭撻よろしくお願いいたします。

## ☆ 2学期始業式 各学年代表生徒の発表より

### 「僕が中学校に入学して感じたことと頑張りたいこと」

1学年 代表生徒

僕は、中学校に入学して悩んだことが大きく分けて2つあります。

1つ目は定期テストです。僕は入学当初、「定期テストなんて、なんだかんだ楽勝だろう」とテストを甘く考えていました。ところが小学校に比べてみると問題の難易度が各段に上がり、どれもハードルが高く、今までの自分がどれほど努力不足だったのかを、思い知らされました。二学期は、コツコツと学習に取り組み、テストのハードルを乗り越えていきたいと思います。

2つ目は部活動です。今年度は人数が少ないこともあって金管楽器でコンクールに出るようお願いされました。初めは、自分に本当にできるのだろうかと心配でしたがやっていくうちにだんだん楽しくなってきました。コンクールは終わりましたが、二学期は紅葉祭での演奏があります。3年生の先輩たちの最後の舞台にもなるので、怠けることなく一生懸命頑張りたいと思います。長い二学期ですが、以上学習と部活を両立できるように頑張りたいです。



\*発表の様子は、原稿ばかりを見るのではなく、前を向いて堂々と話す姿があり立派でした。(担任)

### 「二学期への抱負」

2学年 代表生徒

僕の二学期への抱負は、「もう一步進む」ということです。そして、それについてまず意識していきたいことが2つあります。

1つ目は、普段の生活や物事への取り組みを振り返りその反省を次に生かすことです。反省をして次に生かすことは当たり前のことではありますが、私がそれをできたのは、あまり多くないと思います。なので、反省をしたけれどその反省を意味のないものにしてい



ました。そのため二学期は反省をして、それを次に生かすようにしていきたいと思いました。

2つ目は、何かをやるときに、面倒くさがらず、すぐにやることです。僕はやらなければいけないことがあっても、面倒くさがって後回しにすることが多々ありました。

そのため、あとになって大変な思いをしたことがありました。しかし、何かの本に面倒くさくても、やり始めれば面倒くさくなくなる。という内容が書いてあり、とても大切だと思いました。

そこで、今後何かをやるときは面倒くさがらず、すぐにやってみ

るようにしたいと思いました。以上、二学期を始めるにあたり、反省を次に生かすこと、何かをやるときに面倒くさがらず、すぐにやってみることの2つのことを特に意識し、「もう一歩進む」二学期にしたいと思います。

\*新学期を迎え、自分自身を成長させたいという向上心を感じます。また、そのために「反省を次に生かす」「やることをすぐにやる」という具体的なことも発表してくれました。どちらもこれから先、ずっと大切にしてほしい考えです。また、全校の前で緊張したと思いますが、発表態度も堂々としたものでした。(担任)

## 「二学期の抱負」

3学年 代表生徒



私は二学期に大切にしたいことが2つあります。

1つ目は、自分の実力を理解し、自分に合った方法で学習することです。今までの学習方法は計画性がなく、苦手な教科を避けてしまうことが多くありました。一学期のテスト結果にも取り組みの甘さが表れており、それに加えて三学期に受験が控えていることをふまえて、しっかりと対策を練る必要があると思いました。

そこで、一日一ページ以上の漢字練習をすることや、分からなかった問題をそのままにせず、やり直すといった小規模な目標をいくつか定め、習慣づけていきたいです。習慣づけることで後回しにしたり、苦手な教科を避けたりすることが減っていき、計画性のある学習を実行していきたいと考えています。

2つ目は、人と関わる時間です。三年生は今年度で義務教育が終了し、卒業後は各々の道へ進んでいきます。中には遠くの学校に入学するなどして、再会が難しくなってしまう人もいると思います。そこで、限られた時間をよりよいものにするために、人の話をよく聞ける人になろうと思いました。一人一人の話をよく聞き、覚えておくことで「この人はこんな人だった」と思い出すことができます。どんなに短くても、皆と関わる時間を大切にしようと思います。

三学期はテストの回数が増え、常に時間を意識しなければなりません。こういうときこそ、何か新しい挑戦をして、自分を理解し、前へ進んでいこうと思います。

\*今いる仲間たちと関わるができる時間はとても限られています。だからこそ、今だからこそできる関わり、今しかできない関わりを大切にしたいと思います。クラスや学年の仲間、そして後輩たち。多くの仲間たちと楽しく幸せな時間も苦しく辛い時間も共有してってください。(担任)

## 2学期始業式 学校長の話

### 「生成AIの利用について」

夏休み中、みなさんはどのように過ごしたでしょうか？

夏休み中は、三者懇談会でのお話を活かし、1学期の学習のまとめをしたり部活動に熱心に取り組んだり、またお家の方とお休みを楽しんだりして、充実した夏休みとすることができたことと思います。

さて、今日は2学期の始めにあたり、今、世の中でちょっとした話題となっている「生成AI」についてのお話をしたいと思います。みなさんは、「生成AI」という言葉を聞いたことがありますか？AIとは人工知能、という意味なのですが、このAIがあたかも人間と対話をするような形で、私たちが尋ねたことに答えてくれたり、文書を作成したり、また時には画像なども作成してくれる機能をもつ人工知能のことを「生成AI」というのだそうです。有名な「生成AI」はいくつかありますが、いずれも利用するにあたって、きまり（利用規約）をしっかりと守り、特に著作権の侵害にならないよう注意する必要があります。そして、多くの場合は年齢制限が設けられており、18歳未満の者の使用については、保護者の同意が必要とされています。文部科学省からは「生成AI」利用のガイドラインが出たり、多くの大学からも学生に向け「生成AI」活用に向けてのガイドラインが出されたり、と新聞記事にもなっていました。もちろん「生成AI」は自分が気づかないことを提案したり、英会話の相手として利用したりするなど大変便利で、良い面もたくさんあります。

しかし、文部科学省や多くの大学などから出されているガイドラインで共通して言われていることは、大前提として『「生成AI」は間違った答えを出すこともある』ということです。だから使う側は、『「生成AI」が出した答えは、あくまで参考の一つとし、全てをそのまま信用するのではなく、最終的には自分の頭で考え、判断する』ということが大事になります。さらに、『「生成AI」が作った文章や作品を、そのまま自分の作品とすることは許されない』ということです。私が聴いた講演会でも、講師の先生が『「生成AI」は息を吐くように嘘をつく。』とお話してくださっていたのが印象的でした。

それでは、実際どうなのかな？と思い私は、ある会社の「生成AI」を使用してみました。そのアプリのまずはじめの画面には、「何でも聞いてください」という文字があります。「そうか、何でも聞いていいんだな」と思い期待がもてました。試しに、自分の知っている情報を聞いてみることにしました。私はプロ野球のヤクルトスワローズのファンなので、前の日のヤクルト戦について「生成AI」に聞いてみました。「昨日行われたヤクルト対ジャイアンツ戦のヒーローはだれですか。」と聞いてみました、数秒たって「生成AI」の答えは「ヤクルトの山田哲人選手がヒーローです。」と答えました。私の知っている情報と全く違うので、「昨日は2対1でジャイアンツが勝ちましたが。」と聞くと、しばらくして、「生成AI」は「2対1でジ



ジャイアンツの勝利でした。ジャイアンツの先発投手は菅野選手でした。」と答えました。この答えも先発投手は戸郷選手だったので、何だか変だなと感じました。

気を取り直して、今度は違う会社の「生成AI」に他の質問を試してみました。まず、最初の画面には、「こんにちは〇〇（生成AIの名前）です。創造力や生産性を高めるパートナーとして、あなたをサポートします。ただし、AIには機能の限界があり、常に正しい回答を提供できるとは限りません。」と書かれていました。期待がもてそうでしたが、「間違いもあります。」と予め予防線を張っているな、と思いました。そして、ごんぎつねのお話について、どう回答してくれるか興味があったので、「ごんぎつねの感想文を書いてください。」と入力してみました。すると、しばらくして、「ごんぎつねは、新美南吉の童話です。ある村に暮らすきつねのごんが、村の少年の兵十にいたずらをしますが、兵十はごんを許し、ごんも兵十に心を開きます。しかし、その後、ごんは兵十の飼い犬の金太に襲われ、兵十は金太を殺してしまいます。（途中略します。）この童話は、いたずらっ子も優しい人にも、心に響く物語だと思います。」と回答してきました。みなさんは小学校の時、ごんぎつねのお話を勉強したと思います。作者は新美南吉で正しいのですが、お話の流れが何か変ですよ？ごんぎつねのお話を知らない人が回答を読めば、「そういうものか」と納得してしまうかも知れません。しかし、お話を知っている人が読めば回答が「何か変だな！」と気づくはずですよ。

私が試してみたプロ野球やごんぎつねの結果からも、「生成AI」は全ての問いかけに対し、まだまだ正しい答えを回答してくれるとは限らないことがわかります。先ほど紹介した、多くのガイドラインで力説されていたように、「回答には誤りがある場合もあり、最後の判断は自分でする」ということが大切なようです。これから、皆さんも学習や生活の中で「生成AI」を利用する場面があるかも知れません。今、私がお話ししたようなことがある、ということも十分理解し、その利用にあたっては注意すると共に、最後の判断は人間であるみなさん自身の頭で考え、判断するようにしていくことを大切にしてください。

今日から2学期が始まります。2学期は、35度を超えるような暑い真夏から、そして、雪が舞う寒い年の暮れまでの冬までと、一番長い学期となります。様々な活動に集中し、皆さん一人ひとりにとって様々な「力」をつけ自分の高まりを実感することのできる学期でもあります。生徒会最大の行事である「紅葉祭」など、とても大変ですが、やりがいのある行事もあります。1学期にも紹介した高山中学校の3つの重点活動にもさらに磨きをかけ、2学期も充実した「実りの学期」となりますよう、頑張ってください。

#### \*\*連絡\*\*

登下校の送迎の際には、学校前道路に路上駐車されないようお願いいたします。昇降口ローターリーにて乗降するようにしてください。



〒382-0825 上高井郡高山村大字高井4575 高山村立高山中学校



TEL 026-245-0948/050-3565-7305 FAX 026-246-5007

URL <http://www.takayama-j.ed.jp> E-mail [info@takayama-j.ed.jp](mailto:info@takayama-j.ed.jp) (文責 竹下)